

取扱いの趣旨

超音波ネブライザーは、薬液が気管支まで到達し得るため、より少量の薬剤で病変部位に達し、優れた効果と安全性を両立することから、喘息に対する当該ネブライザーは原則として認められる。

支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】

《平成17年4月25日》

20 超音波ネブライザー②（喘息）

○ 取扱い

喘息に超音波ネブライザーの算定は認められる。

○ 取扱いを定めた理由

吸入療法は、全身療法に比べ、より少量の薬剤が効率的に病変部位に達し、優れた効果と安全性を両立するものであることから喘息に対して有効であると認められる。

グラフの見方

1 棒グラフ（対象レセプトの審査結果）

超音波ネブライザーを算定しているレセプト1万件当たり、条件（喘息に対して超音波ネブライザーを算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

該当するレセプトのうち、超音波ネブライザーが
査定・返戻となった割合

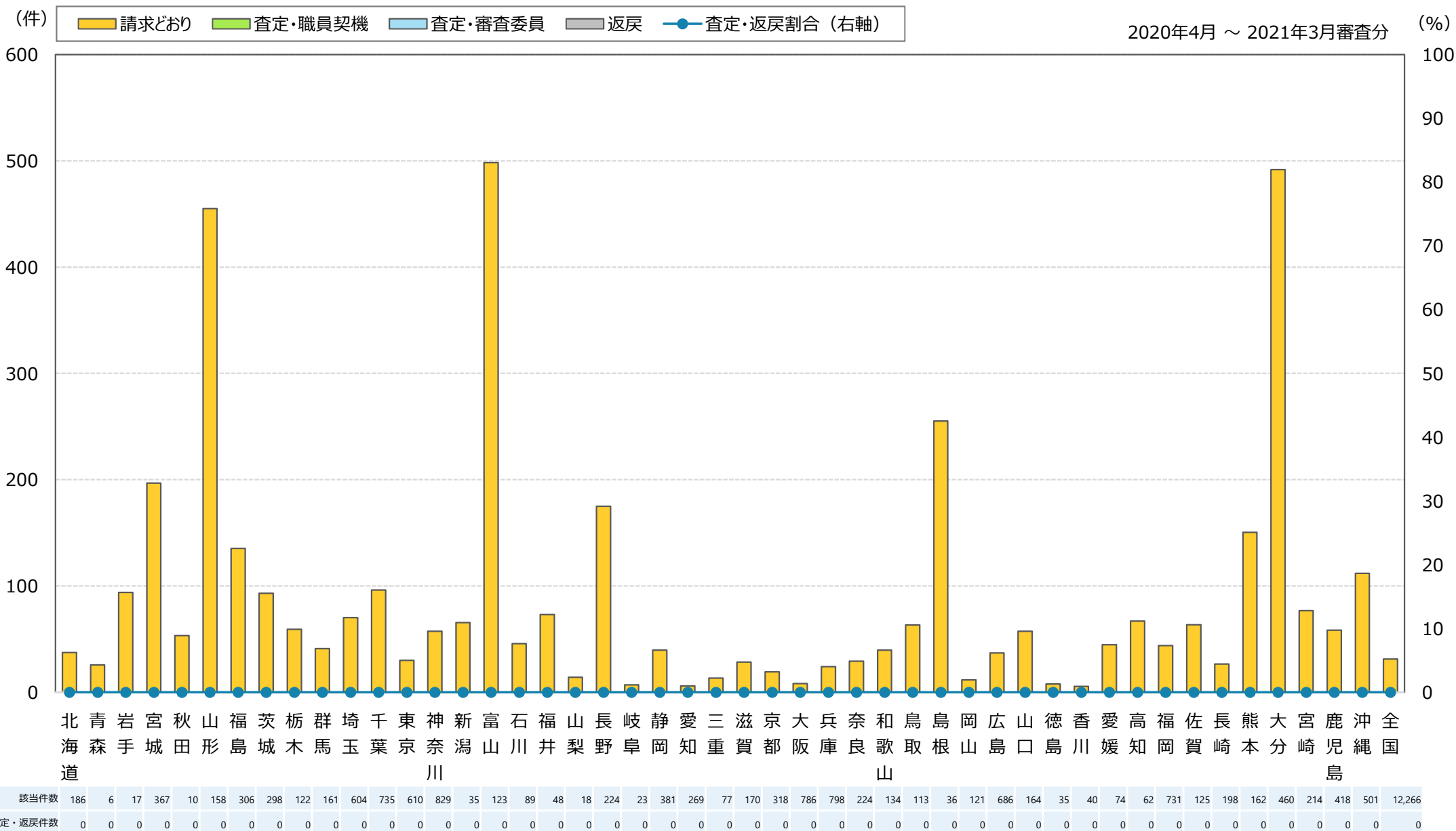
【棒グラフ凡例】 審査の結果

請求どおり			: 取扱いどおり
査定 審査委員	査定 職員契機	返戻	: 検証が必要

審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 0%
- 該当レセプトはすべて取扱いに基づく審査が行われている

検証観点	特に検証を要する支部	備考
査定・返戻割合が高い支部	－	
査定・職員契機	－	
査定・審査委員	－	
返戻	－	
該当件数（全国）	喘息に対して超音波ネブライザーを算定	12,266件
取扱いに基づく審査	請求どおり	12,266件
検証を必要とする審査	査定・返戻の計	0件



【該当件数】 喘息に対して超音波ネブライザーを算定しているレセプト件数